

今号掲載のタスカルーサ市の方々の原文です。（掲載文は要約となります）

ウォルター・マドックス（タスカルーサ市長）

### MESSAGE FROM THE MAYOR OF TUSCALOOSA

Congratulations from the City of Tuscaloosa on your 25<sup>th</sup> anniversary. In America, the 25<sup>th</sup> anniversary is often referred to as the silver anniversary. It's customary for spouses to give each gifts made of silver and for businesses to use the color in celebration materials. Silver is often a symbol of purity, hope and prosperity – all things that could describe our cities.

Narashino and Tuscaloosa became Sister Cities long ago to help guide each other through understanding of culture and by building friendships. While we are different in so many ways, we are alike in so many more. Recently, we have both experienced an evolution of spirit by overcoming tragedies.

Our city, much like yours, has been in a steady rebuilding process after a recent natural tragedy. On April 27, 2011 an EF-4 tornado struck the city of Tuscaloosa and surrounding areas. The outpouring of love and support we have seen for our city through this misfortune acts as a story of confident hope.

Narashino and Tuscaloosa have not only weathered the storm, but our cities have triumphed. While Mother Nature has brought us both clouds, we know that they have silver linings. The good of humankind shines through as we help each other continue to grow physically and culturally.

Again, congratulations from Tuscaloosa! It's been a great and productive 25 years, and we look forward to many more.

Sincerely,  
Mayor Walt Maddox

リサー・キース (タスカルーサ姉妹都市国際委員会代表)

### Cheers to 25 Years – Congratulations NIA!

It is a pleasure to send heartfelt greetings and congratulations to all friends and colleagues in the Narashino International Association as you celebrate 25 years of service to Narashino and the world! The years of the Sister Cities Partnership between Narashino and Tuscaloosa (and the formation of our respective organizations) - have reached a new milestone together, and I am happy and proud that the indelible ties that were established between our cities and our people 25 years ago are now stronger than ever.

During the past two and a half decades, the lives of thousands of people in Narashino and Tuscaloosa (and beyond) have been positively impacted by the work of the NIA. Students and adults have travelled across oceans to learn about cultures different from their own. Thanks to ongoing NIA efforts to reach out to citizens of all nationalities in Narashino, the important work of promoting culture, education, language, understanding and global respect is creating profound success toward global peace and understanding.

The mark of any successful partnership over time comes not so much from the days linking the past to the present (and future), but from the rich memories created along the way. Faces may change, leaders impart their legacies, economies may slow and strengthen, nature stirs then retreats; through it all, our friendships – and our mission to teach, to nurture, to share, to enrich lives with culture and understanding - remains constant. The memories created by the NIA over these past 25 years for countless Tuscaloosans, and others around the world, are priceless. It is an honor to be your friend and colleague!

Happy 25<sup>th</sup> Anniversary, and here's to the next 25 years!

Lisa Keyes  
Tuscaloosa Sister Cities International



# SQUARE スクウェア

季刊会報

第 100 号

2013年1月1日

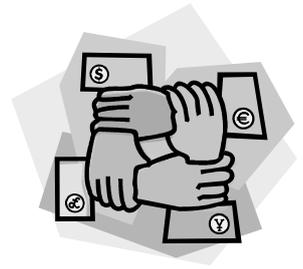
Narashino International Association (NIA)



## 第 25周年 100 記念 号



協会設立の翌1988年の創刊から25年、100号の記念号をお届けします。この間、発行に関わった方々の尽力によりこの号を迎えることができました。今号はこの機会に、これまでの協会の歩みを振り返り、併せてこれからの活動の方向を探るとともに、NIAに寄せる期待を集めました。



## 未来の夢を かたちに

習志野市国際交流協会会長  
崎山 征雄



設立25年を迎えた今、未来を夢見て、夢をかたちに  
にする年にしたいもの。そして未来を形作る担い手  
である新世代の若者と共に、我々は国際社会の中  
で知恵を持った実行力で時代に適合したイノベーシ  
ョンを展開するときです。

10月6日に記念パーティーを近隣の国際交流協  
会の友人を交え、盛大に賑やかに音楽など交えてお  
祝いすることが出来ました。全て会員の皆様の25  
年間の活動とエネルギーが結集したお祝いと心より  
感謝申し上げます。

25年前にタスカルーサ市と習志野市の青少年を  
中心とした友好から花開いた国際交流は、2011年8

NIAスクウェアの創刊第100号、誠におめでとう  
ございます。

昭和62年7月に習志野市国際交流協会が設立さ  
れてから、歴代の会長をはじめ会員の皆様の献身的  
なご尽力により、海外都市の市民との草の根交流や  
市民の国際感覚の醸成が図られてきました。

その中で昭和63年3月に、会員同士の情報共有と  
広く市民や関係機関、諸外国都市との交友の場とな  
ることを目指して、記念すべき第1号が創刊されま  
した。

以来、会員のみならず、学校を通して各家庭等にも  
配布されて多くの市民の目に触れられてきました。  
会員同士のふれあいはもちろん、諸外国の暮らし、  
海外の方とのつながりの様子が紹介され、たく  
さんの方が登場しています。

その歩みを振り返りますと、本市国際交流の足跡  
が生き生きとした姿となって刻み込まれていること  
がわかります。発刊当時の編集員の言葉に、「人々  
の交歓。素敵な出会い。そんな“SQUARE（広場）”

月にタスカルーサ市で開かれた25周年祝典で、ドイ  
ツ・ショーンドルフ市やアフリカ・ガーナのスニヤ  
ニ市テチマン市とも繋がろうとしています。また  
20年前、同じ習志野で始まった谷津干潟のラムサー  
ル条約締結を契機とした湿地交流も、オーストラリ  
ア・ブリスベンと高校生を中心とした青少年の交流  
を続けており、今、より強い絆でNIAとも繋がろ  
うとしています。

グローバルな人とは、海外の方々と一緒に様々な  
テーマで協同作業ができる人、相手の話を聞き自分  
の考えで説得できる人、日本の文化を理解し、他国  
の文化、宗教を理解し、多様性、論理的思考力、コ  
ミュニケーション能力を持つ、幅広い教養を身に付  
けた人です。国際交流協会とは海の向こうの友人と  
友情を育み、刺激しあい、お互いの文化を繋げ、一  
つの世界を創る為にあると考えます。

これからも新世代を中心として「夢を素晴らしいか  
たちに」をテーマに、新たな友情の花を咲かせましょ  
う。

「友情は瞬間が咲かせる花であり、時間が実らせる  
果実である」——コツツエー（劇作家、ドイツ人）

## スクウェア 第100号を 祝して

習志野市長  
宮本 泰介



でありたい」という言葉がありました。まさにここ  
は街角での心温まる交流の場です。25年が経過し  
た現在も、創世記の方々の思いが受け継がれ、さら  
に躍進していることを感じます。

これからもNIAスクウェアが、国際交流協会が  
市民交流の促進や在住外国人への支援等の活動をして  
いく上での貴重な情報の発信源として、会員、市民、  
そして世界中の人々がともに相互の友情、理解を育  
む、身近な“SQUARE（広場）”であり続けること  
を切に期待しています。

## 大自然の母は 銀色の裏地も 与えてくれる

タスカルーサ市長

ウォルター・マドックス



習志野国際交流協会 25 周年をタスカルーサ市よりお祝い申し上げます。アメリカでは 25 周年は銀の記念日と言われています。配偶者同志は銀の贈り物を交換し、ビジネスにおいてはお祝いに銀色の品を用います。銀は清純・希望・繁栄（これらすべては両市を言い表しています）の象徴です。

習志野市とタスカルーサ市は友情を築くことにより、また文化理解を通じて、長い間姉妹都市として

お互いに手を取り合って歩んでまいりました。私たちは様々な相違点がありますが、同時にそれを上回る共通点があります。近年、両市は共に自然大惨事を乗り越えることにより精神的な発展を遂げました。

習志野市と同じく当市は、自然災害後の一連の再建のさなかにあります。2011 年 4 月 27 日-28 日に竜巻 EF-4 がタスカルーサ市とその周辺を襲いました。この不運を通じて私たちが出会った溢れる愛と支援は、自信に満ちた希望の歴史の証です。

習志野とタスカルーサは荒天だけではなく、乗り越える喜びを持ちました。大自然の母が我々に雲をもたらす時、同時に銀色の裏地も与えてくださることを私たちは知りました。私たちが、物理的にも文化的にも成長し続けるのを互いに助け合うことを通じて、人間の価値は真価を発揮するでしょう。

もう一度タスカルーサ市よりお祝い申し上げます。素晴らしく、実りある 25 年でした。そして、私たちはそれ以上の将来を期待しています。

習志野国際交流協会の総ての友人と仲間たちが、25 年の習志野と世界にわたる奉仕を祝うと知って、心からのご挨拶とお祝いを申し上げることが出来て嬉しく思います。歳月を経て私たちの姉妹都市（そしてそれぞれの組織）の交流は、ともに新しい重要な段階に達しました。そして私は、私たち両市と市民によって結ばれた絆が、かつてないほどより強い関係になったことに幸せと誇りを感じています。

過去 25 年の間、習志野とタスカルーサ（その他の地域も）の多くの人々の人生は NIA の働きによって明らかに影響を受けてきました。学生たちや大人たちが異文化を学ぶために海を越えて旅をしてきました。習志野であらゆる国の人々へ差しのべられた、NIA の皆様のたゆまぬご尽力に感謝いたします。文化・教育・語学を奨励する重要な仕事や、理解・尊敬は世界の平和と相互理解に向かう深い流れを作り出します。日々のつながりからもたらされるひとつひとつのものは多くはありませんが、過去から現在（そして未来）へ時を超えて築いた友好のしるしは、豊かな思い出が紡いでくれるのです。人々は交

## 25 年に乾杯... おめでとうございます NIA

タスカルーサ国際姉妹都市  
リサ・キース



代し、リーダーは受け継いだものを分け与え、そのすべてを通じて私たちの友情は…そして、教え・育み・分かち合い・文化と相互理解によって人生を豊かにする私たちの使命は…脈々と続くのです。タスカルーサの人々や他の世界中の数え切れないほどの方々にとって、過去 25 年を超える NIA によって築かれた思い出はきわめて貴重なものです。あなた方の友人や仲間であることは光栄なことです。

25 周年おめでとう！そして、これに続く次の 25 年も！



# 各国語が交じるパーティーと

……設立 25 周年アニバーサリーパーティーとふれあい祭報告……

## ふれあい祭りも同時開催

平成 23 年 12 月に第 1 回実行委員会が開かれ、25 周年事業の計画が始まりました。平成 24 年 2 月の第 2 回会議で、セレモニー、講演会、祝賀会による構成とし、ふれあい祭りも合わせて行うこととなりました。また 25 周年記念誌発行も企画されました。

5 月 17 日第 4 回会議において崎山会長から、若い人たちが集まってくる、ついてくるような企画をしていきたいとの提案があり、記念式典と祝賀会を一緒にしたパーティー形式でシンプルなものにしようという会長案に決定されました。そして 8 月 22 日第 7 回会議でパーティー次第をはじめ、ふれあい祭りについても最終決定がなされました。

ほぼ 1 年をかけて計画され準備された 25 周年事業として、平成 24 年 10 月 6 日（土）モリシア 4 階多目的ホールで祝賀会＝アニバーサリーパーティー

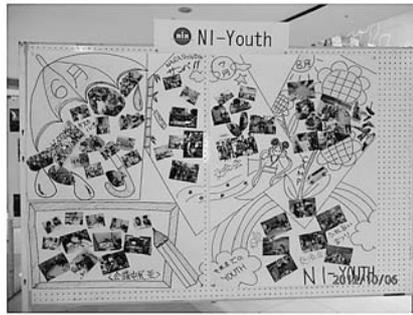
が開かれました。

## 草の根交流の映像

当日 11 時に受付を済ませた出席者は、まず NI-Youth のメンバーが待つウェルカムドリンクコーナーで思い思いのドリンクを手渡され、「NIA25 年のあゆみ」と題された映像が流れる会場に入りました。

映像は、26 年前、習志野市とタスカルーサ市の姉妹都市提携がなされたこと、その 1 年後習志野市国際交流協会が設立されたこと、そして 25 年間のさまざまな NIA の活動を映し出していました。ボランティアひとりひとりの熱意に支えられて続いてきた、日本人と外国人の草の根交流の記録です。





# 手作り感あふれるパネル展示

実行委員会 田中芳恵

## バイオリンとジャズのライブ

11時30分から式典が始まりました。司会進行役は高村理事と私田中です。崎山NIA会長、宮本習志野市長挨拶のあと来賓の紹介、24年9月から習志野市に来ました3人のALTの紹介、林初代会長挨拶があり、荒木前市長の音頭による乾杯に引き続き歓談が始まりました。BGMには、女性2人の「R&B」によるバイオリン演奏、続いてジャズバンド「林静誠とシーフレンド楽団」による演奏がライブで催されました。

会場ではあちらこちらで和やかな歓談風景が見られました。国際交流協会のパーティーと思わせるのは、日本語での歓談にとどまらず、英語・中国語などが聞こえることでした。各テーブルには美しいアレンジフラワーと美味しいお料理が並んでいました。1時30分に吉村副会長の水に関わるショート

レクチャーがあり、それを若者が中心になって楽しく傾聴しながらアニバーサリーパーティーはお開きとなりました。出席者は来賓34名、一般会員76名、合計110名でした。

## 新たなボランティアも発見

一方モリシアセンターコートでは、ふれあい祭りとして10月5、6日の2日間にわたりパネル展示が行われました。NIA全体や各部会の紹介パネルは写真と手作り感あふれる若々しいもので、なかなか好評でした。立ち寄った市民の中にはパネル展示を見てNIA活動に興味を持った人もいて、その中の一人は日本語学習支援ボランティアとして活動に参加することになりました。次回の周年記念事業は5年後となります。さらに多くの方に参加いただけるよう、会員の皆様からのアイディアをお待ちしています。



1986年4月  
姉妹都市提携調印式



NIAはどのように始まったのか、なぜ姉妹都市がタスカルーサになったのか、率直な疑問をお持ちのかたも少なくないでしょう。かつて市の総務部で立ち上げに尽力されたお2人に聞きました。

## 経済交流より文化交流

1980年代後半、日本の各地で国際交流の気運が起きました。各自治体の中にも国際化事業が沸き上がってきました。習志野市周辺の各市で姉妹都市交流や国際交流協会が設立されたのもこの頃です。習志野市の場合、姉妹都市提携のきっかけはどうだったのでしょうか。それについて、当時習志野市の総務部長だった石松八千男さんはこう話します。

「初めはタスカルーサからの話でした。タスカルーサの属するアラバマ州東京事務所から千葉県を通して、習志野市との交流を希望してきました。先方は経済交流、それも企業誘致を考えていたのです。

しかし、習志野市はそれは無理と判断しました。その代わり教育中心の交流を望んだのです。タスカルーサにはアラバマ大学があり、習志野市にもいくつもの大学がありますから。ただ姉妹都市を結ぶといってもタスカルーサがどんなところかわからないので、当時の三上市長や議長でタスカルーサを訪問。アラバマ大学を見学し、市の説明を聞きました」

石松さんも随行しました。そして日本に戻って検討の結果、同じ文教都市であり、教育関連の交流をしようということでタスカルーサとの姉妹都市締結を決定しました。市議会の承認も得て1年後、タス

カルーサからの訪問団が来日して調印したのです。翌年、習志野市からも行政と市民からなる訪問団を結成してタスカルーサ市を訪問、米国での調印式に参加しました。

## 国際交流協会設立

発足時の姉妹都市事業は、タスカルーサ側の窓口は市の商工会議所で、こちらは習志野市の総務部が窓口となる行政の仕事でした。その時の総務課長だった笛吹優さんは、姉妹都市調印からその後の国際交流協会設立までを奔走、初代の事務局長となります。笛吹さんは当時を思い出して、

「国際交流、といってもまずはタスカルーサとの姉妹都市交流ですが、行政だけが国際化事業といってもダメだと考えまして、市民と一緒に作った組織を作ろうということで、国際交流協会設立準備委員会を作りました。訪問団に加わった市民が中心となって、それに企業も参加してくれました。そして林安次さんに初代会長を引き受けてもらい、設立に至りました」

そして1987年(昭和62年)7月18日、習志野市国際交流協会が設立されました。発足時の個人会員は264人、企業などの特別会員は88団体でした。会員は市の広報や口コミで呼びかけ、集まったのは市

# NIA 誕生の頃を ふりかえる

民のみなさんでした。青少年の会員も期待しましたが、あまり集まらなかったようです。当初の年間予算は約 200 万円、そのうち 100 万円が習志野市からの補助金でした。

## 初期の活動

初めの頃の NIA の活動は文通とか青少年交流が主でした。タスカルーサから学生が来ましたし、習志野高校からも派遣されたりしました。スポーツや音楽などで活発な交流がありました。高校生は市から助成金も出ましたが基本的に渡航費用は個人負担でした。研修で教職員の派遣や受け入れも行われました。後にはカナダ、オーストラリアからも訪問団が訪れるようになりました。

もうひとつの中心的活動は広報誌スクウェアの発行でした。スクウェアにはとても力を入れていて、好評だったようです。それでこれは小中学生にも読ませたいという声が上がりました。しかしそれだけ作る費用がないということで、熱心な人が中心となって広告を集めました。行政の事業でもあり批判の声もありましたが、熱意が勝ったのでしょう、実現させてしまいました。発行費用の半分を広告でまかなったそうです。

やがて会員の中から活動の提案が出てきました。世界の料理教室、語学講座、英語交流キャンプなど、

現在につながる活動が始まったのです。

## 習志野市からの独立

設立から 12 年、1999 年（平成 11 年）NIA は大きな転機を迎えます。習志野市から独立することになったのです。その時、2 度めの事務局長を務めていた笛吹さんは、

「国際交流協会という団体が市の行政の中にあるのはおかしい、という声が上がってきました。要するに行政のスリム化の一環でした。それで市から分かれることになりました」

「国際交流協会を市民に移してもっと自由に活動するほうがいい、行政の中に事務局を置いていると、課長が異動で代わってしまうこともありました。そうするとある事業が続かないということもあり、他の仕事もあって動けないという懸念もありました。初めから決まっていたわけではありませんが、10 年を目処に協会を独立させようという構想は設立当初からありました」

「市から離れた当初は、それまでの協会の仕事と行政の仕事の境目がはっきりせず、運営はなかなかたいへんでした」と語る笛吹さん。事務局が土曜日も開くことにしたのもこの頃からでした。何とか軌道に乗ったのは 1 年後だったそうです。



1986年10月  
タスカルーサ訪問

習志野市国際交流協会の出来事 1986—2012

昭和61年(1986)	習志野市タスカルーサ市姉妹都市提携調印	
昭和62年(1987)	習志野市国際交流協会設立 初代:林安次会長就任	
昭和63年(1988)	協会報スクウェア創刊。	
平成元年(1989)	第1回市民訪問団タスカルーサ市訪問 第1回小中学校教員タスカルーサ訪問 語学交流講座開始(8言語11クラス236人)	
平成2年(1990)	第3回英語交流キャンプ、富士吉田青年の家	
平成3年(1991)	青少年部会が発足、4部会となる。「N.I.Youth」創刊号発行 姉妹都市提携5周年記念、荒木市長他タスカルーサ訪問 アラバマ大学主催第1回俳句コンテスト	
平成4年(1992)	習志野市文化協会タスカルーサ市訪問	
平成5年(1993)	世界の民族料理教室開催	
平成6年(1994)	第2回市民訪問団タスカルーサ市訪問	
平成7年(1995)	第2回タスカルーサ市教員(受入)	
平成8年(1996)	姉妹都市提携10周年、荒木市長他公式&市民訪問団タスカルーサ訪問 習志野高校とセントラル高校が姉妹都市高校に！ 日本語教師ボランティア事業開始	
平成9年(1997)	第2回習志野高等学校吹奏楽部タスカルーサ市派遣 協会設立10周年。NIAホームページ開設	
平成10年(1998)	さくら祭り絵画コンテスト第1回参加	
平成11年(1999)	習志野市国際交流協会の独立 サンロード津田沼4階に事務局設置	
平成12年(2000)	市民祭り参加「世界の人々と語ろう、遊ぼう」	
平成13年(2001)	タスカルーサ市南部竜巻被害に対する見舞金 米国同時多発テロのため9.11以降市民相互訪問は中止	
平成14年(2002)	第2代白鳥純会長就任	
平成15年(2003)	イラク戦争のため青少年語学研修(派遣)中止	
平成16年(2004)	第3代山田大三会長就任 市制施行50周年、タスカルーサ市代表及びショーンドルフ代表来習	
平成17年(2005)	ハリケーンカトリーナ被害義援金(習志野市から)	
平成18年(2006)	姉妹都市提携20周年、荒木市長他公式&市民訪問団タスカルーサ訪問 姉妹都市提携20周年式典、タスカルーサ市から来習	
平成19年(2007)	協会設立20周年記念式典(於茜浜ホール) 市民訪問団M&Mツアータスカルーサ市訪問(市民等11人)	
平成20年(2008)	青少年交流、タスカルーサ高校生受入	
平成21年(2009)	第1回ふれあい祭り:サンロード6階で開催	
平成22年(2010)	第4代崎山征雄会長就任 第2回ふれあい祭り:サンロード6階で開催	
平成23年(2011)	第3回ふれあい祭り:東日本大震災のため中止 東日本大震災義援金(タスカルーサ市から):竜巻被害義援金(習志野市から) 姉妹都市提携25周年記念、市民訪問団タスカルーサ訪問	
平成24年(2012)	協会設立25周年記念式典(モリシア4F) 千葉県国際交流連絡協議会実施(モリシア4F)	



姉妹都市モニュメント

# 姉妹都市 タスカルーサ 案内



市章



## ■名前の由来は「黒い勇士」

アラバマ州の中西部にあって、市の面積は 182 平方 km (そのうち陸地は 156 平方 km)、人口は約 9 万人です。ちなみに習志野市は 21 平方 km、16 万人です。「タスカルーサ」は「黒い勇士」の意味で、アメリカ先住民の酋長の名前に由来しています。人口構成は 54% が白人、43% がアフリカ系、その他がアジア、ヒスパニック・ラテン系です。

## ■サザン・ホスピタリティでもてなす人々

「近代的なビルもありますが、全体には広い土地に建物が点在する、南部ののんびりとした田舎町という感じですね」と語るのは、これまで 3 回も訪問している現在習志野市の企画政策部部長の諏訪晴信さん。「朝、散歩の途中でリスを見かけました」というのも日常のようです。

人々はアメリカ南部の「サザンホスピタリティ」で訪れる人を温かくもてなしてくれます。やはり習志野高校生と以前に訪れた、同じ企画政策部次長の井澤修美さんは「サザン・ホスピタリティでしょうが、とても気を使ってくれるんです。訪問した時、乗っていたバスの到着が 3,4 時間も大幅に遅れました。夜遅くなったのに、市長も待っていてくださって、食事も用意していただき、とても感激しました」という体験をされたそうです。

## ■大学の中に街がある

習志野市との姉妹都市提携は文教都市による結びつきです。アラバマ大学の本部があるタスカルーサは、街中至る所に大学の施設があります。「バスに乗ってみるとキャンパスの中に街があるというくらい、街と大学が一体になっています」と諏訪さん。市

内には歴史的な古い建物が点在していて、「歴史を大切にしている」と感じたそうです。

## ■フットボールの強豪校

アラバマ大学のフットボールチームも街の誇りです。これまで全米優勝も数多い強豪チームで、映画「フォレスト・ガンプ」でも有名です。シーズンには 10 万人収容の「ブライアント・デニー・スタジアム」に各地から人が集まり、市内の宿泊施設は全部埋まってしまいます。

## ■さくら祭りのコンテスト

毎年 3 月には「さくら祭り」が開かれます。この時はアラバマ大学主催の俳句コンテスト、またタスカルーサ姉妹都市国際委員会主催の絵画コンテストが行われます。習志野市からも小学生から成人まで多くの方の作品が出展され、毎回多数の入賞者が出ています。

## ■子どもが実体験できる博物館

Children's Hands-On Museum (CHOM) は、見るだけではなく触ったり身につけたりできる子どものための博物館。消防士や銀行員などの職業体験もできます。諏訪さんによると「日本の部屋を再現したコーナーがあって、初めは畳が手に入らず困っていたのを知って、習志野市から畳をプレゼントした」そうです。「ロウ細工の料理サンプルも日本から持ち帰り、展示してありました」と井澤さん。

## ■竜巻災害

2011 年 4 月 27 日、南部を襲った記録的な竜巻に見舞われ、市内は大被害を受け、多くの死傷者を出しました。NIA からもお見舞いのメッセージと災害義援金を送りました。



歴史的建物



市街遠望



ブライアント・デニー・スタジアム

# NIA に 期待します

## 実践を楽しめたら最高

習志野ロータリークラブ会長  
鈴木 純雄

永く国際間の理解と親善にご活躍されている習志野市国際交流協会に改めて敬意とともに感謝を申し上げます。

私共習志野ロータリークラブも、交換留学生および様々な実践と共に地域並びに世界の平和を目指して活動しつつ、今年 50 周年を迎えます。打つ手は千手、それぞれの立場を生かし、自由闊達な手段を駆使し、主催者自身がその実践を楽しめたら最高と存じます。楽しく平和な心は万国共通で、必ず先方に伝わりますので。

改めて 25 周年記念、おめでとうございます。

## 普段の交流の積み重ねが力に

習志野ライオンズクラブ会長  
帯包 文雄

私共は台湾の竹南ライオンズクラブと姉妹提携しており、約 40 年にわたり、ほぼ毎年会員の行き来を

続けています。2012 年は台湾から 17 人、こちらからは 5 人行きました。2011 年の東日本大震災の際には、竹南クラブから即座に約 100 万円の義援金が送られてきて、大変ありがたく思い、感動しました。

何かあった時に助けあったり、国と国の間に問題が生じた時などに少しでも混乱を回避できるようにする……。そういう力も、普段の交流の積み重ねがあれば築いていけるのではないのでしょうか。そして、そういう方が大勢いたらよいと思います。

習志野市国際交流協会には、抽象的な日米親善とかではない、アメリカのアラバマ州の中のタスカルーサという一つの市との友好を、これからもずっと深めていっていただけたら、と期待しております。

## 青少年のための新たな活動

習志野中央ロータリークラブ会長  
鈴木 理

当クラブには元々、「クラブ奉仕」「職業奉仕」「社会福祉奉仕」「国際奉仕」という 4 大奉仕部門があります。国際奉仕部門では、海外での井戸作りプロジェクトや、青少年交換プログラムなどを行っています。この 4 本柱に、2011 年から「新世代奉仕」が加わり、5 大奉仕部門となりました。

新世代奉仕部門は、18 歳以下の若者を対象に、青少年育成のためのいろいろな奉仕活動の展開を目的にしています。この青少年のための新たな活動を、習志野市国際交流協会と共同で何かできれば、より大きな実りが期待できると思います。留学生との食事会やスポーツ大会、青少年交換など、中長期的な取り組みでぜひ一緒にいかがでしょうか。

## 青少年の受け入れや言葉で 協力しあって

習志野中央ライオンズクラブ会長  
林 孝治

国際交流に関しては、青少年の海外派遣と受け入れ、姉妹提携した台湾の豊原中央獅子会との行き来、などを行ってきました。豊原さんとの交流は 25 年

近くなります。

青少年の海外派遣は、当初は基本的に会員子女が対象でしたが、1989年以降は広く市内の高校生大学生を対象とするようになりました。これまでで合計30名となり、独自の活動として対外的にも高い評価を得ました。

受け入れはアメリカ、マレーシア、台湾などから10名になります。ホストファミリーは会員宅だけでなく、非会員の国際交流協会の方が協力して下さいました。今後も、受け入れ先や言葉の点などで、習志野市国際交流協会と協力していければ、と願っています。

## 市民の目により触れる活動を

習志野青年会議所 2012年度理事長  
鏡屋 智幸

異なる文化・国々の人たちが仲良く共存できる世界を実現したい——。これは、私共の理念の一つです。その実現に向けて、国際交流協会と今後何かもっと協働していければよいな、と思います。

国際交流協会の長年にわたる精力的な活動にはいつも感服しています。が、あえて申し上げれば、活動がもう少し一般市民の方々の目に届く形であれば、さらによいのでは、と感じます。

たとえば、タスカルーサと習志野の両市民をまじえた“お祭り”などはいかがでしょう？屋外で通りすがりの人々にも見える所で、双方の歌や踊り、物産展などを行う。もちろん、そんな折には私共も全面的に協力していきたいと思っています。

## 留学生同士の交流を作って

千葉工業大学事務局長  
金子 和弘

昭和30年代生まれの私には、学生時代、国際交流は実に遠い存在でした。しかし今はそうではありません。現在、私の長男はザルツブルクに留学、長女はボストンに住んでいます。ですから今は国際交流は大変身近なものと感じています。遠い外国に住む

娘からは毎日の暮らしぶりが色々な形態で入ってきます。まるで近隣に住んでいるかのようです。

国際交流については、毎年中国から留学生が来ていますが、尖閣諸島の問題から来年は派遣が難しいということも現地から聞いています。国と国の間の不和が学生たちに持ち込まれることなく、心と心の交流をして欲しいと思います。

習志野市国際交流協会には、まず千葉工業大学と日本大学・生産工学部の留学生同士の交流のきっかけを作って欲しいですね。

## 中高生へ語学研修の機会を

市立習志野高等学校校長  
越川 均

本校は教育方針で、「国際的視野に立つ豊かな教養を備え、困難を克服するたくましい人材の養成」を謳っています。生徒たちが国際交流を通して、異文化理解を深めるということは大変価値あることだと思っています。毎年7月にアラバマ大学で3週間の語学研修を行っています。長引く日本経済の停滞からか、今年の参加者は6名に減ってしまいました。現状の全額個人負担を何とか軽減できる方法を考えていただけたら嬉しいです。(アラバマ大学の授業料の一部負担など)また、習志野高校単独ではなく、NIAが中心となり市内の中学高校生たちを集める形で行ってはどうでしょうか。そうすれば市の補助も期待できるかもしれません。海外での体験を持ち帰った生徒からまわりの生徒たちにもたらす波及効果は大きなものがあります。より多くの参加者が日本にはできない豊かな体験をすることによって、国際人としても成長してほしいと思います。



## 英語へ興味のきっかけ作り

東邦大学付属東邦中・高等学校教諭  
中山 健太郎

本校では、オーストラリア、ブリスベンの Shafston international College で約2週間の語学研修を実施しております。平成24年度は高校1年生40名が参加しました。

習志野市にある高校の生徒が気軽に参加できるスピーチ大会などをNIAに開催して頂けたら、生徒の励みになると思います。あまり堅苦しくない雰囲気、自分の考えを英語で発表できる場を提供していただけたらとてもありがたいことだと思います。

自分の英語が実際に通じたと言う経験は、生徒たちには大きな喜びを与えます。小さなきっかけにより生徒たちが英語に更に興味をもつようにもなります。そのきっかけ作りをNIAの方々にも今後とも期待しています。



英語の課外活動

## 地域国際化活動を共に

浦安市国際交流協会会長 米田 喬

私たちが今、力を入れているのは地域国際化活動です。地域国際化活動の基礎となるシステムとして、「浦安市在住外国人ネットワーク」（言語別外国人名簿：言語・氏名・メールアドレス）の構築を考えています。それは在住外国人に多言語化情報を効率よく発信するためです。その活動の主力となっているのは、日本語学習支援担当と翻訳・通訳担当の人たちです。一方で、国際交流・国際親善の分野では、効果の大きいホームステイ事業の充実と促進に取り組んでいます。

また事務局機能を強化し活動会員支援を補強したいです。国際交流事業の重要性を一般会員に理解してもらおうとともに、市役所にも理解してもらい、司令塔になってほしいと思っています。習志野市国際交流協会には、地域国際化の活動をともに発展させていくことを期待しています。

## 素晴らしい体験を多くの人に

ホームステイ受け入れ家庭

昨年初めてホストファミリーを体験したAさんは「語学は少し苦手だったのですが、その後スクウェアやNIAのホームページから高校生たちの喜びが伝わってきて、私たち家族は本当に嬉しかったです。NIAの語学講座は知りませんでした。語学上達の機会があったらいいですね。ホストファミリー以外の活動はよく知りません。参加する条件が厳しいのでは、と躊躇してしまいます。でも今後もホストファミリーとしてお役に立ちたいと思っています」とおっしゃいます。

これまで多くの交流体験をされたBさんは「タスカルーサも訪問しましたし、ホストファミリーも何度か引き受けました。素晴らしい体験でした。交流協会は多くの方にその機会を作ってほしいと思います」とのご意見です。また「募集要項には、同世代の子供がいることとありましたが、あまり家族構成は気にする必要はないと思います」とも付け加えています。

## 2年でひらがなもカタカナも

日本語教室学習者 フェルナンド・ミヤグスク

わたしは今、日本語教室で勉強しています。2年前にアメリカから日本に来たとき、日本語はほとんどわかりませんでした。でも今ではひらがなカタカナも読んだり書いたりできるようになりました。驚くほど上達したとは思いませんが、でもここまで時間もかかりましたし努力もしました。習志野市国際交流協会、特にわたしのために時間を割いて熱心に教えてくださる小澤さんにはとても感謝しています。

## 第2の故郷、私の家族、NIA

NIA英語講座講師  
西條マリア・ジェシカ・パテルノ

会員の皆様こんにちは。ジェシカです。10年以上のNIAのメンバーとして、ジェシーの愛称でおつきあいさせていただいております。日本は第2の故郷であり、家族の雰囲気のようにとけ込んでおります。NIAに入り、多くの友人や仲間、さらに習志野市のためにボランティアとして惜しみない活動をしている、尊敬すべき方々にお会いすることができました。最後に、日頃市のために貢献している素晴らしいNIA、会員、事務局、支援者の皆様とともに、スクウェア100号記念の発行をお祝いしたいと思います。

## NIA 会員・市民の参加を期待

国際交流部会長 尾黒 治夫

国際交流協会として姉妹都市タスカルーサとの交流事業を着実に進めていきます。まずは桜まつりの俳句コンテスト、絵画コンテストにさらに多くの小中高生や一般市民のかたの参加を呼びかけます。また、タスカルーサからの訪問団を受け入れるホストファミリーを広く募集して受け入れ態勢を充実させます。さらに2016年の姉妹都市提携30周年に市民訪問団派遣のための積立も始めます。一方で、新たな国・地域との友好・親善関係を目指して、交流の機会を探っていきます。

## もっと外へ

文化交流部会長 吉田 武

市民がNIAのことをあまり知らないですね。参加するには英語が話せなくてはなりませんか、といわれたこともあります。もっと知ってほしいです。

それにはわれわれが外に向かって拡がっていく必要があります。これはいろいろな面で感じます。姉妹都市交流を拡げたり外国人関連の課題を解決するには外とのつながりが欠かせません。地元の企業や大学との結びつきができると、お金の援助でなくても、例えばイベント会場を借りるとかできます。ま

た他の協会に協力や援助を求めてもいいですし、いいところはまねてもいいと思います。それには日常の働きかけが必要です。イベントを一緒にやってもいいでしょう。

そして有益な情報を集めるためや、しっかりと交渉をするためにはわれわれひとりひとりがもっと力をつけるとともに、隠れている有能な人を発掘していくことも必要です。例えば大使館にコネがあって話ができる人がいてもいいですね。

多文化共生を進めるためにも、普段から事務所に外国人が頻繁に出入りしたり、イベントには声をかけるとすぐに集まるといった、さらに開かれた状態にしたいです。さまざまなルートを使って、散在する外国人ネットワークに加わり、会員でなくてもいいから巻き込んでいく。日本人についても普段から外国人とふれあう機会を作って、交流に慣れておかないと、直前にホームステイの受け入れ家庭を募集しても集まらないでしょう

さらにもっと多人数で活動がしたいです。ボランティアですからひとりひとりには限界もありますから。NIAの部会も小さく分けずに、力が集まるように組織を再検討してもいいと思います。

## 通訳支援と交流の場作り

外国人支援部会長 山口 大二郎

外国人支援部会の活動には大きく分けて市からの業務要請と自主活動があります。市在住外国人の中で、送付されてくる日本語の書類内容を理解できず、税金を滞納し累積額が増えて支払い不能になるなど、行政手続上の内容が理解できず、困難をきたしている方への生活相談通訳をします。また日常生活では病院の医療通訳、保育園などへの入園手続などがあります。また災害緊急避難時の避難情報ネットワーク作りに参加します。

楽しい自主活動としては会員と市在住外国人とのコミュニケーションの場を設定します。毎週月曜日ALTとの英語でのCHATや2ヶ月ごとに開催されるフライデイサロンへの支援など、英語で会話が楽しめる機会を作ってまいります。

## 日本語支援の役割を担う

日本語教室部会長 田中 芳恵

2012年7月9日、日本に在住する外国人にとって一つの時代が終了しました。「外国人登録証明書」が廃止されたのです。外国人居住者と日本人とが、同様の住民基本台帳制度の下で登録できるようになりました。これにより外国人在住者にとって、習志野市でできる手続きの範囲が拡大しました。家族全員が一つの制度の下での手続きができ、外国人の配偶者も世帯主になれるようになりました。

このような時代の変化の中、習志野市国際交流協会も25周年という節目を迎え、新たな一步を踏み出しました。そして日本語教室部会の活動もまた重要な役割を担っていることと深く受け止めています。

現在市庁舎の大会議室を利用して日本語教室を週5日開催しています。この教室では、日本で生活する上で必要な日本語を学び、地域社会や職場において互いの文化を理解・尊重し合い、安全で文化的な生活ができるようマンツーマンで週1回1時間半の日本語学習の支援をしています。この支援活動を縮小することなく充実に努め、市民生活が充足できるよう市行政と協働し強力に進めていきます。外国人在住者も日本人も互いに尊重し合い楽しい生活ができるための活動を続けます。



日本語教室

## 有効な広報へ向けて

広報青年部会 高山 進三郎

会員相互の情報共有と市民への情報発信のため、会報「スクウェア」、ホームページ、協会パンフレッ

ト等を編集・発行することは、これからも NIA の大切な役割です。時代の移り変わりとともに形骸化の指摘もあり、現状および将来を見据えた見直しを行なって、実際に役に立つ媒体としてのありかたを探っています。また情報の拠点となるには組織としてまだまだ弱体でもあり、これから人員の拡充・態勢の強化も欠かせません。加えて国際交流と謳う以上は、会員外国人の参加・支援も大切です、NIA 全体の関与と支援を求めたいと思います。また NI-Youth は習志野に集う外国人留学生や市内青少年の国際交流活動拠点として大切な役割を担っています。NI-Youth の活動を通しての若い世代との連携、支援を進め、新たな活動にも取り組んでいきます。

## 他地域の青少年とも協力

NI-Youth代表 小川 翔平

現在、NI-Youthでは10名のメンバーで活動しています。1年前はメンバーが5人ほどしかいなかったことを考えると大きな進歩です。大学生や社会人の交流会参加者もだんだん増えています。しかしどの地域でも未だに青少年の交流活動参加率は高くありません。そのため今年のNI-Youthは習志野を中心に、船橋、市川、浦安で活動している青少年とも協力し活動して行くことを視野に入れていきます。ただ人を集めて話をさせるだけではなく、外国人を交えてそれぞれの国の文化について話し合う会や、どうすれば多文化の中で交流していくことができるか話し合う会も行っていきたいと思っています。まだまだ未熟な部分の多い学生主体の活動ですが、今後の青少年活動にご期待下さい！



NI-Youthのメンバー（富士通の勉強会で）

## インドネシア料理教室に参加して

赤松 佳美

『世界の料理』は、今回で45回目を迎え、この12年間で中国、フィリピン、ロシア、スペイン、韓国、ブラジル等20か国を超える国々のお料理をご紹介してきました。

今回は、去る9月26日、インドネシアの首都ジャカルタ出身の砂川イレーンさんに代表的なインドネシア料理を教えていただきました。メニューは、①ナシゴレン（焼き飯）②ガドガド（温野菜サラダ）③クルプック（エビせん）④エス ジュルック ニピス（柑橘ジュース）です。

インドネシア民族音楽のBGMをバックに、イレーンさんの流暢な日本語の挨拶でスタート。まずはスパイス作りです。石製のすり鉢に材料を入れ、手首をうまく使って、押しつぶしていきます。エスニックな香りが広がりとっても辛い！インドネシアの家庭ではこれを毎朝作って、様々なお料理に使うのだそうです。材料の配合を尋ねると、「キラキラ！」（適当な、大体、約の意）とイレーンさん。その笑顔もキラキラしていました。続いてクルプッ

ク。揚げるだけなのですが、あっと言う間に大きく膨れ上がるので、焦げてしまったり、丸まってしまうたり・・・平たくい色に揚げるのに四苦八苦しました。エビたっぷりスパイシーに炒めたナシゴレンの上に、クルプックをのせて完成。ガドガドは、ゆでた野菜をピーナッツ風味のソースで和えて出来上がり。そしてエス ジュルック ニピスは、ニピスと言う柑橘系の果物が手に入りにくいので、すだちとライムを代用して仕上げました。

9月末なのに暑かったこの日、常夏のインドネシアのお話を聞きながら、スパイシーなお料理を堪能しました。



イレーンさんの指導で賑やかな教室

## 千葉県国際交流協会連絡協議会報告



議事進行はNIA吉田文化交流部会長

10月29日（月）、モリシア津田沼多目的ホールで第3回千葉県国際交流協会連絡協議会が開かれました。県内各市の加盟協会・基金17団体から12団体

が出席、今回はNIAが幹事協会です。会長・副会長等に加えて、今回は習志野市の島田行信副市長にも出席をいただきました。事前に各協会・基金から提出されたテーマに基づき、現在抱えているさまざまな課題として、災害時の相互支援、青少年交流事業、市民の国際感覚醸成促進、日本国籍を持たない外国人市民の支援活動、などについて活発で積極的な意見・情報交換が行われました。その内容はNIAの今後の運営や事業展開に参考になりました。終了後、引き続いて出席者による交流会が開催され、和やかな雰囲気でご懇親を深めました。



## 2013年(平成25年)さくら祭 アラバマ大学主催俳句コンテスト作品募集

今回のテーマは「Aspire」(希望)です。このテーマで俳句を作り、一人一点応募してください。

応募要領：応募用紙は NIA 事務局または NIA のホームページから入手してください。

応募締切：2013年1月25日(金)までに NIA 事務局へ提出してください。(1月11日より受付)

応募部門：小学校1年生～3年生、小学校4年生～6年生、中学校・高等学校、成人の部の4部門です。

表彰：入賞作品には賞状が授与されます。

## NI-Youth、組織運営の勉強会 「習志野Café」も開催

広報青年部会

10月23日(火)に菊田公民館にて、富士通の方3名にお越し頂き、NI-Youth のための勉強会を開きました。NI-Youth から9名が参加、交流会などの企画の進め方やNI-Youth の組織の運営方法について、社会で活躍されている方々から貴重なお話をして頂きました。

より良い国際交流会を開催するための方法や、その交流会を継続的にこなっていくための組織のあり方を見つけることができ、今回学んだことを活かして今後さらにNI-Youth の活動を盛り上げていける



勉強会でのNI-Youthメンバー

ように、メンバー一同一層努力していきます。

また、11月6日(火)にはNI-Youth の新企画として「習志野Café」の第1回目を習志野市市民プラザ大久保で開催しました。様々な国籍の30名が参加。意義深い国際交流を持続的に提供していくことを企画の目的としており、今後もワールドカフェの形式で“融和”について参加者と一緒に考えていきたいと思っています。

## 「スクウェア」リニューアルのお知らせ

広報青年部会

スクウェアは100号を迎え、それを記念して増ページし習志野市国際交流協会の25周年を祝う特集号にしました。NIAの生い立ちを振り返り、これからの新たな活動の展開に向けてどのような期待が寄せられているかいろいろな方々のご意見を頂きました。次の新たなクォーターは既にスタートしています。国際交流の原点に立ち、NIA会員がいろいろな国との交流・親善と奉仕の精神で活動し、さらなる発展に向けて取り組むことが求められています。

なお、スクウェアは次号から誌面を一新します。ここ数年、NIAをとりまく状況に照らしてスクウェアのあり方を見直す要請が寄せられるようになり、広報青年部会では刷新に向けた検討を重ねて来ました。その結果、来年度より新スタイルのスクウェアとして再スタートする予定です。詳細については準備中ですが、よりフレッシュでコンパクトな、面白く役立つ情報をお届けします。どうぞご期待ください。NIA 会員みなさまの新スクウェアへのご意見ご希望をぜひお寄せください。あわせて一層のご協力をお願いいたします。

## スクウェア 第100号

発行 2013年1月1日

### 習志野市国際交流協会

発行責任者 崎山 征雄  
編集責任者 高山 進三郎

〒275-0016  
千葉県習志野市津田沼5-12-12  
サンロード津田沼6F

TEL/FAX 047-452-2650

<http://www.nia08.com/>  
<Eメール> [nia@seaple.ne.jp](mailto:nia@seaple.ne.jp)